



気候変動と環境経営(10-2)

カサンドラの予言 (再生エネの負の影響)

ざっくり理解する気候変動 井川タ慈著より

1月②-2のごあいさつ

山内公認会計士事務所

2026年1月13日(火)

「EV普及で道路に傷み、発電所建設で減る食糧生産、再生エネの負の影響」、カサンドラの絶景を日経ビジネスで読んで、再生可能エネルギーやEVの普及が、世界の経済格差を拡大させているのかと心配になった。地球温暖化を防ぐために再生可能エネルギーの普及が世界で進むが、思わぬ負の影響が広がる恐れが出ている。重い電気自動車が増えて、道路や橋が傷んだり、発電所の建設で農地や漁業に被害や副作用が出る。

経済学者の見解によると、短期的、中期的な調整局面においては、格差と新たな不公平を生む可能性が非常に高いという見解であった。太陽光発電に適した土地は、農業に適した土地と完全に競合する。農地の減少は、食糧価格への波及、農地が減り、食糧供給が減り、食糧価格が値上がりする。

ここでも、地主と借地人の格差を生むグリーンインフレーションの原因となる。

これはカサンドラの予言ではなかろうか。

ギリシャ神話のカサンドラは、「未来は予言できるが、誰にも信じてもらえない」という呪いをかけられた女性である。

しかし、彼女の予言は、「脱炭素は完全な善である」という合唱の中で、見過ごされている点を強調し、予言の対策が後手に回ることに警鐘を鳴らしているのではないだろうか。

カサンドラの予言は「事実の全体像」ではなくとも、「事実の断片」であることは確かである。

これは物事には全体像が必要であることが、同時に部分の警告も重要であると考えるべきではないだろうか。

EVの走行距離課税へのシフト、営農型太陽光発電の適正化（農業と発電の両立）、など企業の社会的負担の公正化が必要になるのではないだろうか。

日経電子版 カサンドラの絶景を読んで…